

## 第 23 回参議院議員選挙闘争の集約にあたって

7月21日に投開票が行われた第23回参議院議員選挙は、自民党が非改選議席と合わせ過半数の63議席を上回る65議席を確保し、衆議院・参議院とも自民党の第一党を許す結果となりました。

私たちにとって今回の選挙は、昨年末の第46回衆議院議員選挙に続く大変厳しい選挙結果となりましたが、真夏の猛暑の中、選挙闘争で職場や地域から応援をいただき、奮闘された全ての組合員・OB、家族、そして議員団会議の皆さんに心よりお礼と感謝を申し上げます。

今参院選は、憲法、原発、そしてTPP問題など、「未来を決する」政策が問われる歴史的な分岐点となる選挙でした。しかし重要な政策課題は意図的にぼかさされ、衆参の「ねじれ解消」や安倍政権が推し進める経済政策(アベノミクス)がマスコミを中心に映し出されました。加えて前回の衆院選と同様、反改憲、脱原発、反TPPの政策で野党が一致協力することが出来なかったことも、自民党が「漁夫の利」を得る結果を招いたと言えます。

一方、民主党政権の後退で大きな失望が渦巻く中、民主党への信頼は今回の選挙でも回復されず、結党以来、最低の議席獲得数となりました。そうした政治不信は、2010年の参議院議員選挙を下回る投票率(52.61%)にも表れています。また、憲法改悪を目指す自民党と日本維新の会、そしてみんなの党の非改選議席とを合わせた獲得議席は144議席と、憲法改正の発議に必要な国会議員の三分の二にあと一步と迫っています。

今回の選挙で、憲法改悪がますます現実の危機になりました。それでも厳しい選挙戦を勝ち抜いた推薦議員との連帯を強化し、田城参議院議員をはじめ心ある議員とともに、憲法改悪を断固阻止する闘いを進めるとともに、東日本大震災・原発事故や、深刻な格差・貧困に苦しむ人々へ「寄り添う政治」の実現を目指さなくてはなりません。

JR総連は、改憲や原発推進に抗する闘いをはじめ、政策課題の実現に向け奮闘していくことをあらためて表明し、集約にあたっての見解とします。

2013年7月22日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）